金沢錦丘中学・高等学校　学校訪問報告

日　時　　平成２５年9月２７日（金）　１２：４５～１６：００
訪問者　　山田　茂雄・矢嶋　崇顕
回答者　　釜親　徹　教頭（高校）

1　学校の状況

（１）中学からの進学者(内進生)と高校からの進学者(外進生)の違い（生徒の学力、教育課程など）

・クラス編成は別である。

・内進生より外進生の方が大人しいところはあるが互いに切磋琢磨して、まとまりがある。学校自体が注目されていることに自信・誇りを持っている。

（２）生徒の通学地区

・全県一区で市内が中心であるが、山間部から通学する生徒の内、下宿する生徒もいる。

（３）中学・高校間の交流（会議、特別活動）

・合同の職員会議があり高校と中学との授業交流がある。また、少数だが６年間持ち上がる教員がいる。職員室は別である。

2　設置前の準備内容

・小学生の保護者への説明会は県主催で行われた。

3　設置による影響

（１）保護者、地域、県民の反応

・研究が盛んで先進的な取り組みをする学校というイメージが定着している。

（２）地区内の小中学校、保護者の進学熱への影響

・東大など難関大学に進学できる学校になった。

4　学習指導への取り組み

（１）６年間を見通したカリキュラム上の特徴

・学校設定科目「LC(ロジカルコミュニケーション)探求・発展」では、英語を使った論理的思考力・プレゼンテーション能力の育成を目指している。

・総合的な学習の時間で表現力トレーニング、論理トレーニングを行い、昨年度末は論理力テストを作成し、１年生で実施した。

・英語科で６年間を通した Can do リストの作成を目指している。数学科では発展的な内容（高校の分野）を中学の学校設定科目「アドバンス数学」で取り扱っている。

（２）キャリア教育の実践状況

・１年の7 月に金沢大と連携した出前授業(１０分野)を行っている。文理選択に役立っている。

5　中高接続に関わる事項

（１）部活動の現状について

・中高ともにある部活動では、新人戦後に中3 が参加することもある。

・球技などでは中高で練習試合ができ、中学のハンドボール部などが強い。

（２）中高合同の活動はあるのか

・生徒会は中高別々にあり交流がある。行事において、文化祭や陸上競技会を合同で行う。

6　大学進学状況

・中高一貫の生徒が卒業したころから、難関国立大の合格者数が倍増した。

・東大に毎年入学できる学校になった。

7　その他

・教室が広く、校内も広い。教室数は多く、分割(習熟度別)授業が円滑に行われていた。

・視聴覚教室は、３６０人入れる。体育館は、校舎の2・３階にありバスケコート３面分で、全校が集まれる広さ。それ以外に、集会などできるスペースが用意されている。

・授業は内進生と外進生を別けているが、一部の科目や補習授業は混合で実施している。

・定期考査前１０日間は５０分授業を実施している（普段は４５×７）。

・定期考査は６０分もしくは８０分(数学)で、石川県ではこれがスタンダード。